No. 1. 1956, V-15

日本菌学会会報

日本菌学会発行（事務局：東京都台東区上野公園，国立科学博物館内）

TRANSACTIONS OF THE MYCOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN

Published by the Mycological Society of Japan
Office: National Science Museum, Ueno Park, Tokyo, Japan

日本菌学会設立趣意書

良きにつけ悪しきにつけ，自然界において極めて特異な，そして偉大な役割を果している菌類は，近代生物学の躍進によつて人生との結びつきを益々深くし，菌学及びその応用学の研究は新しい脚光を浴びるに至つた。

しかるに我国における菌学の研究は，歴史的に見て必ずしも新しいとはいえないが，研究の進歩は牛の歩みの如く，欧米諸国にくらべて著しいおくれを見せていたことは遺憾である。高等植物にくらべて遙かに多くの種をもつ菌類の世界，しかも生物の宝庫と見られる我国の菌類が，未だに多くの暗黒面を残したままに放置されていることは，それ自体すでに許されないことであるばかりでなく，それは近代的応用菌学の各分野の進歩発達に大きな障害とさえなつている。

菌学の進歩に情熱をいだいた我々の先輩は，いくたびか菌類学会の創立をめざしたが，いずれもその大成を見せずに今日に至つた。思うにこの企図が個人を中心として企てられたからである。我々菌学の研究を志す有志 30 余名は，この経験にかんがみて，終戦直後から菌類談話会をつくり，同志的集まりを持ちつつ，菌学会発足の機が熟するのをまつてきた。この集まりには学閥も門閥も系閥もなかつた。それは菌類の cosmopolitan 性によつて象徴されるとうりである。

今や菌学会設立の機は熟した。学会発足の日が1年おくれれば，菌学の進歩に十年のおくれをもたらすであろう。我々は菌類談話会の同志的結合の範囲を全国的にひろめ，ここに日本菌学会を創立するものである。

この学会の目指す理想は高い。しかし，狭く不安定な基礎の上には高い理想の塔は建設されない。日本の菌学は多くの人の理解と協力とを基盤としてうち建てられなければならない。とくに長い間下積にされた日本の菌学の飛躍的な進歩は，専門家とアマチュアとを問わず，同好同学の士相互の緊密な提携，連絡とを欠くべからざる条件とするからである。明治初年，近代菌学が日本に始まつてすでに 70 年余，今日ようやく日本菌学会が創設されるに当り，全国の同好同学諸賢の力強い協力を心から期待する所以である。

1956-II-20.



会長　草野俊助博士
President, Dr. Shunsuke KUSANO

草野博士は今年 82 才の御高令にも拘らず，ますます御元気である。先生は戦後，御郷里の福島県中村市に本居をうつしておられるが，菌類談話会時代から毎月の談話会には欠かさず出席され，又，1948 年夏の八甲田山，1950 年の菅平での採集会にも参加され，常に先生独特のユーモアをたたえつつ，フレッシュな意見や貴重な指針を会員に与え下さつている。先生の御健康を祈つてやまない。

日本菌学会規約

1. 名称　本会を日本菌学会 (The Mycological Society of Japan) と称する。

2. 目的　菌類研究者相互の協力，親睦を計り，兼ねて諸外国の菌学会と密接な連絡を保ち，菌学の発展に寄与する。そのため別項の如き事業を行う。

3. 構成　会員及び会員相互の選出による役員により構成せられる。事務所は庶務幹事の常在する処におく。

会　員

4. 本会の趣旨に賛同し入会を希望する者は，会員一名の紹介により入会を申し込み得る。入会申込者は所定の手続を経た上で正会員となり得る。

5. 会員を分けて正会員，客員及び賛助会員とする。客員は外国の著名菌学者で，且つ日本の菌学界に好意を持つもののうちより推薦する。

賛助会員は会の越旨に賛同し，年に 2,000 円以上を納入する団体及び個人とする。

6. 新正会員は入会時に入会金 500 円及びその年度の会費を納める。

7. 正会員は前年の 12 月末までに 1 年分の会費を予納せねばならない。年会費 350 円。

8. 会員は次の利益をうけることが出来る。

(イ) 例会，大会に出席し，研究を発表し，意見を述べる。

(ロ) 研究論文を本会関係の印刷物に投稿が出来る。

(ハ) 本会と特約ある学術雑誌，その他の図書の特別配布の便が与えられる。

(ニ) 会報の配布を受ける。

(ホ) 会員個人或はその関係する機関の蔵書，菌標本，培養菌種など出来る限り相互利用，斡旋をうける。

9. 会費未納者には印刷物の発送を停止する。又 1 カ年以上滞納者は特別の理由がない限り会員の資格を失う。

役　員

10. 会長 1 名，幹事及び幹事補佐各若干名を置く。また支部設立の場合は支部幹事を置くことが出来る。

11. 会長　正会員中より互選する。本会を代表し，会務を統括する。任期は 2 年，但し重任を妨げない。

12. 幹事　会長が総会出席の正会員の了解の下に会員中よりこれを委嘱する。任期 2 カ年，但し重任を妨げない。次の会務を分担執行する。幹事会は随時行う。

(イ) 庶務　渉外事務，地方及び友好学術団体との連絡，総会，大会，旅行計画，会員の慶弔，その他一般庶務

(ロ) 会計

(ハ) 例会　例会の計画，実施，記録

(ニ) 編集　会報の編集等

13. 支部幹事，幹事補佐，若干名を会長が委嘱する。

会　議

14. 年 1 回大会時に総会を開く。会務並びに会計の報告を行い，役員改選その他決議すべき事項があれば議題にのせる。

15. 審議会　会長，幹事及び必要ある場合は正会員中の若干名を加えて諸種事項を審議，議決し，或はその内容に応じて正会員の了解を求め，或は総会にかける。

事　業

16. 本会の目的を遂行するために次の事業を行う。

(イ) 研究資料（文献，相互の研究報告，標本，培養菌株等）の蒐集，保存及びその使用便宜

(ロ) 例会，大会，採集旅行

(ハ) 印刷物発行

17. 大会　年 1 回総会を兼ねて大会を開き，この月には例会を行わない。研究報告・その他の講演を行う。

18. 例会　毎月 1 回（夏季を除き年間 9 回）の例会を行う。研究発表，中間報告，論文抄読，その他。このうち 1 回は植物学会大会の際，その開催地にて行う。例会は例会幹事により斡旋せられるが，地方にて行われる場合は，支部幹事或は現地会員と共同で計画せられる。

19. 採集旅行（ファンガス・フォーレー）　会員相互の親睦と菌類採集を兼ねて 1 泊以上の旅行を行う。

20. 本会の印刷物は会報とする。

21. 事業を盛んにするため地方に支部を置くことが出来る。

会　計

22. 会計幹事が出納保管を行い，毎年総会に於て報告する。

23. 会計年度は毎年 1 月 1 日に初まり同年 12 月 31 日に終る。

24. 本会の経費は会費，入会金，寄付金，その他の収入を以てする。

25. 支出は印刷費，通信費，大会費用，事務費，庶務費等に当てる。

附　則

1. 規約改正　本会の規約を改正する場合には審議会を経て総会に於て決定する。

2. 例会　各地で行われることが好ましいが，先ず東京にて夏季を除く毎月1回（年間9回）の例会を開き，研究発表，中間報告，論文抄読，その他を行う。このうち1～2回は植物学会その他の関係諸学会の地方大会開催の際，その開催地にて行う。例会幹事により斡旋せられるが，地方にて行われる場合は，支部幹事或は現地会員と共同で計画せられる。例会費はその都度徴収する。例会通知は全会員に出す。毎月の例会通知状に前回の例会にての話の要項，その他の記事を載せ不参加者への便を図ることが望ましい。

各国の菌類関係雑誌及菌学会の消長

小 林 義 雄

Y. Kobayasi: Mycological Periodicals and Societies

ここに菌類を中心とする隠花植物関係の雑誌と学会の一覧表を記して見る。病理，応用方面は除いた。先ず単独で雑誌の発刊されているもの，次に学会の機関誌を年代順に挙げた。このほかにオランダの "Fungus" という雑誌その他があるが，是等は資料の明になり次第追記する。各雑誌の我国に於ける所在と共に御気付きの点を御知らせ願えれば幸である。菌学会として最も古く，現在も連綿として受けつがれているのは1885年（明治18年）創立のフランス菌学会である。また雑誌として最も古かつたものは Hedwigia である。ドイツは別としてフランス（1885），アメリカ（1885），イギリス（1896）等の雑誌が相前後して刊行されたのも一つはその時代の要求ともいえよう。雑誌の企画者の死とともに廃刊になつたものには古く Grevillea, Mycol. Centralbl. 等，最近では Farlowia がある。多くの者の協力とよき後継者を絶対に必要とすることが判る。現在，菌学界のすべての点で世界第一位はアメリカであるが，古い歴史をほこる欧洲も愈々積極的である。特にスイス，オランダ，デンマルク，オーストリア，チエッコ，フインランド等は斯る事業に於ては我国よりも先輩である。ソ連関係は，最近レニングラードのアカデミイの菌学者に連絡がついたから後便が待たれる。第二次戦の影響は菌学界にも強かつた。特にドイツでは1852年（嘉永5年）以来一世紀近く続いた Hedwigia をはじめ，Ann. Myc., Zeitschr. f. Pilzk. 等相次いで廃刊或は休刊になつた。しかし戦後の発行も目覚しい。Sydowia, J. Gen. Microb., Česká Myk., Karstenia 等々。日本には菌類書のセットが非常に少く，欠本も多いから，今後は互に協力して分担購入することも必要である。Rev. Mycol. など余の知る限りは何処にもない。我国にも当然生れいずるべくして，その機会に恵まれなかつた菌学会も漸く呱々の声を挙げ，機関誌も現れようとしている。10年後，100年後の成果は如何であろうか。初めの貧弱なのは問題ではない。要するにねばり強いファイトである。彼の Hedwigia ですら第1巻，127総頁を出すのに6年を費したことを思うべきである。

略記号　Of: Officers　Ad: Address　Pe: Periodical　Co: Contents　Ed: Editorial committee　Pb: Publisher　Sb: Subscription　Ow: Owned by　Nt: Notes

Hedwigia (Organ für Kryptogamenkunde und Phytopathologie nebst Repertorium für Literature) 1 (1852-7)—82 (1-2) (1944) Originated by Rabenhorst in 1852 as "Notizblatt für kryptogamische Studien". Co: General cryptogamic botany and phytopathology. Ad: Dresden. Ow: 北大理植 1-80 (1941), 北大農植 28-72, 東大植 1-21, 55 (1914)—78 (1940), 植会 34-54, 東大農植 36-55, 科博 61-64, 朝比奈 1-, 京大植 64-72. 服部研。全巻 (vol. 1-81) 揃の Microcards が発売さる。発行所 Commonwealth Mycological Institute, Ferry Lane, Kew, Surrey. Nt: 第1巻は No. 1 (1852)—No. 20 (1857), pp. 127, Cohn, De Bary 等の論文あり。大揃約 24 万円。

Grevillea (A monthly record of cryptogamic botany and its literature) 1 (1872)—9 (1882) Originated and edited by M. C. Cook. Pb: Williams & Norgate, London. Ow: 科博 3, 4, 5 東大理植 + 江本 1-9 Nt: Greville····Edinburgh botanist (1794-1866).

Annales Mycologici (Editi in Notitiam Scientiae Mycologicae Universalis) 1 (1903)—39 (1941)—? 1 vol. 6 Hefte, ca 400-500 pp. per year. Originated by Paul Sydow (1851-1925) and followed by his son H. Sydow (1879-1946). Pb: R. Friedländer u. Sohn, Berlin. Ow: 北大農植 1-39 (1941), 東大農植 1-37, 科博 31 (1933)—36, 京大農生 1-39, 武田研 1-, 九大農植病 1-38, Nt: H. Sydow の死去とともに廃刊，Sydowia に引継がる。

Mycologisches Centralblatt—Mycological Review (Zeitschrift für Allgemeine und Angewandte Mycologie) 1 (1912)—3 (1913)—5 (1915). Co: Wissenschaftliche Forschung auf den Gebieten der Allgemeine Mycologie, Gärungschemie und Technischen Mycologie. Ed: C. Wehmer (Hannover) Pb: Ant. Kainsche, Jena. Ow: 北大農応菌，東大

農植，徳研，阪大醸，九大植病(以上 1-5)，東大理植 2, 3, 4 (1-6). Nt: 1913 年に既に黄変米の研究あり。

Sydowia

1 (1-3 : 1-160 p. am Sept. 1947, 4-6 : 161-378 p.) 2 (386 pp.) (1948), 3 (383 pp.) 4 (588 pp.) 5 (549 pp.) 6 (457 pp.) 7 (412 pp.), 8 (365 pp.) (1954)+ Originated by F. Petrak as the continuation of "Ann. Myc." Co: Fungous phylogeny, taxonomy, Ed: F. Petrak, Wien II, Zirkusgasse 52, Oesterreich. Ad: Naturhistorisches Museum, Botanische Abteilung, Wien 1, Burgring 7, Oesterreich. Pb: Verlag von Ferdinand Berger, Horn, Oesterreich. Sb: 40 Swiss Fr (Ca 3300 yen) per year. Ow: 平塚 1-8+ Nt: F. Petrak は故 H. Sydow の親友，彼自身の論文多し。

Annales de Cryptogamie Exotique

1 (1928)—6 (1932)—9 (1935) Co: Mushrooms, Algae, Musci, Hepaticae, Lichens. Ed: Heim (Fungi), Allorge (Algae), Zahlbruckner (Lichen) Hamel (Seaweed), Portier de la Varde (Musci). Ow: 小林 1-6 Nt: 1935 年に廃刊，代りに Rev. Mycol. 発足。

Revue de Mycologie

1 (1936)—10 (1945)—20 (1955) + Ed: Roger Heim, J. Duché, G. Malençon. Ad: Laboratoire de Cryptogamie, Du Museum National D'Histoire Naturelle, 12, rue de Buffon, Paris. Ow: 科博にて注文中。

Mycopathologia

1 (1938-9)—3 (1941)—6 (1952)+ One vol., 4 fascicles, 1 fasc. ca 80 pp. Ed: Ciferri R. (Firenze), Redaelli P. (Pavia). Pb: Uitgeverij Dr. W. Junk (Groetschel & v. Assema Metz)—Den Haag Sb: 1 vol. 18 fl. Holl. (in 1941) Ow: 北大農植 1+，長研 1-3 Nt: イタリーで編集され，オランダで印刷されている。人体寄生菌多し，大揃 23,000 円位。

Mykologia

1 (1924)—8(1931) Cont: 主として高等菌類。Ed: Velenowsky Ad: Praha, Czechoslovakia Ow: 植物学会。

Lloydia (A Quarterly Journal of Biological Science) 1 (1938)—18 (1955)+ One vol., 4 numbers per year Co: Mycology, general taxonomy, pharmacology. Ed. Th. Just (Editor) John H. Hoskins (Associate Ed.) Ad: Lloyd Library and Museum, 309 W. Court St., Cincinnati 2, Ohio Sb: 4.00 $ per year Ow: 北大理 1+，東大理植 1+，長研 15 (1952)+，科博 11 (1948)—18 (1954)+，九大理昆 1+ Nt: C. G. Lloyd (1859-1926) は菌類辞典 (1954) によれば "A somewhat eccentric American businessman and amateur mycologist" で名著 Mycological Writings 1-7, Lloyd Library and Museum，多数の標本，巨万の財産をのこした。本誌は遺言によりその遺産で出版せられている。

Farlowia (A Journal of Cryptogamic Botany)

1: 1～2 (1943), 3～4 ('44) 2: 1～2 ('45), 3～4 ('46) 3: 1～2 ('47), 3 ('48), 4 ('49) 4: 1 ('50), 2('52), 3('53), 4('55) Originated by D. H. Linder (1899-1946). Completed in 16 numbers. Ed: in 1955 Seeler (Mg. Ed.), J. R. Bartholomew, E. B. Bartram, F. Verdoorn, N. F. Conant, W. H. Weston, R. M. Whelden, I. M. Lamb Ad: Farlow Library and Herbarium of Harvard University, 20 Divinity Ave., Cambridge, Mass. Ow: 科博 1-4 (1955) 林試 1-4，長研 4，東大農水産 1-3，服部研 1-4 Nt: 1955 年7月1日付を以て出版費その他の理由で中止。

Parasitica

1 (1945)— Co: 不完全菌その他 Ed: R. Vanderwalle Ad: Gembloux, Belgium

Annual Review of Microbiology

1 (1947)—9 (1955)+ One vol. ca 300—500 pp. incl. author & subject index per year. Co: General Reviews on special subjects of all fileds of microbiology Ed: C. E. Clifton (Editor), S. Raffel (Asoc. Ed.). H. A. Barker (Ass. Ed.) Ad: Annual Reviews, Inc. Stanford, California Sb. 6.00 $ each (plus shipping) Ow: 林試 1-9 長研 5.6 Nt: 5 人を以て編集委員会をつくり，内1名ずつ毎年交替，取次店 丸善。

Elisha Mitchell Scientific Society

Of: W. C. George (President) Ad: Univ. of North Carolina, Chapel Hill, N. C. Established by the Fund of Francis Preston Venable in 1883.

Pe: **Journal of the Elisha Mitchell Scientific Society** 1 (1883-4)—4 (1887)—71 (1955)+ One vol. 2 numbers per year Co: General science Ed: J. N. Couch (Chairman), E. Kathleen Goldie-Smith (Executive Editor) Ad: Dept. of Botany, Univ. of North Carolina Sb. 3.50 $ per year Ow:

北大物 45-55, 東北大数 54-57, 動物学会 18-33, 印東 54-57, 66-71, 科博 66 (1950)—71 (1955), 長研 68-70。

Société Mycologique de France

Of: (1954-'55) M. Le Gal (President), A. Maublanc (Secretary) Y. André (Treasurer) Ad: 16, rue Claude Bernard, Paris Ve. Members 965, incl. honourable members.

Pe: **Bulletin Trimestriel de la Société Mycologique de France** 1 (1885)—70 (1954-'55)+ One vol. 4 numbers per year Co: Pour le progrès et la diffusion des connaissances relatives aux champignons Ed: R. Heim, Romagnesi, Mme Le Gal Sb: 1500 fr. pour les pays étrangers Ow: 北大理植 1-70 東大農植 13-30, 植物学会 20-, 今井 41, 42, 57-70, 科博 71 (1-3) (1955), 京大農生 1-55, 九大植病 1-48。

British Mycological Society

Of: S. D. Garrett (President)

Pe: **Transactions of the British Mycological Society**

1 (1896-1901)—18 (1933)—37 (1954)+ One vol. 4 numbers per year Co: Moulds, mushrooms, slime moulds. Ed: (1955) P. H. Gregory, G. C. Ainsworth. Ad: Cambridge Univ. Press, London, Bentley House, N. W. I. Sb: 50 S (8.50 $ in America) per vol. Ow: 北大 1-, 東大植 1-18 (1933) 教育大植 25 (1941)—38, 林試37-, 京大農生 1-14, 通産省醱酵研 25-34 (1941-50)。

Mycological Society of America

Of: W. W. Diehl (President in 1955). Ad: New York Botanical Garden, Bronx Park, New York City Members 641 in 1952.

Pe: **Mycologia** 1 (Jan. 1909)—47 (1956)+ One vol. 6 numbers, 800-1000 pp. per year. Issued by New York Botanical Garden, in cooperation with Myc. Soc. America. Co: Devoted to fungi, including lichens, containing technical articles and news and notes of general interest. Ed: G. W. Martin (Chief), D. P. Rogers (Manag. Ed.), E. K. Cash, C. W. Emmons, F. L. Drayton, H. L. Barnett. Sb: 8.50 $ per year. Ow: 北大農植, 東大農植, 林試, 小林, 教育大理植, 武田研, 京大農植, その他 (以上 1-) Nt: 本誌の前身は Kellerman, Ellis, Everhart により創始せられた Journal of Mycology (1 (1885)—14 (1908)) である。1909 年より David Lydig の基金により本誌が発行され当時の Editor は W. A. Murrill であつた。出版所はニューヨーク植物園, 1933 年菌類学会が結成され, 半ばその機関誌となつた。Journ. Myc. 東大理植。

Deutschen Gesellschaft für Pilzkunde

Ad: Darmstadt

Pe: **Zeitschrift für Pilzkunde** 1 (1922)—18 (1939)—20 (1942) One vol. 3-12 Hefte, commonly 4 Hefte. Ed: Kallenbach (Chief), Killermann. Ow: 小林 16-18, 京大農植 1-18, 京大林 5-17, 九大植病 1-7, Nt: 前身に Der Pilz—und Kräuterfreund 1 (1917)—5 (1921) あり, これを通巻すれば 23 in 1939 (Alte Folge). 戦後の状況不明。

Schweizerischer Vereine für Pilzkunde

Of: Ch. Schwärzel (President), Paul Hügin. Ad: P. Hügin, Rheinstraße 34, Birsfelden, Schweiz.

Pe: **Schweizerische Zeitschrift für Pilzkunde** (Bulletin Suisse de Mycologie) Published in cooperation with Vapko, Vereinigung der amtlichen Pilzkontrollorgane der Schweiz. 1 (1923)—33 (1955)+ One vol. 12 numbers per year. Ed: Rudolf Haller, Gartenstrasze 725, Suhr (Ag.) Sb: Schw. Fr. 10 for foreign, per year. Ow: 京大林 1-16 (1938), 京大農生 10-17, 本郷, 小林, 31 科博 33 (1955), 34: 1-。

Societa Internazionale di Microbiologia

Ad: Milano (124)—Via C. Darwin, 20.

Pe: **Bollettino della Sezione Italiana** 1 (1929?)—12 (1940)—? Ow: 今井 3-12, 北大医。

Nederlandsche Vereeniging voor Microbiologie (Nederlands Society of Microbiology).

Of: Clarenburg, Julius, Kingma Boltjes, Kluyver, Charl. Ruys, Smit, Snijders, Verlinde, Westerdijk, Winkler.

Pe: **Antonie van Leeuwenhoek** (Journal of Microbiology and Serology) 1 (1934)—21 (1955). One vol. 4 numbers ca 400 pp. per year. Co: Devoted to microbiology, serology and related fields of science in English, French and Germany. Ed: M. P. Löhnis, L. H. C. Perquin. Pb: Swets en Zeitlinger (Boekhandel en Uitgeversmaatschappij) Keizersgracht 471, Amsterdam C. Sb: 20 guilders (ca 2000 yen) per year. Ow: 東北大衛 5 (3-4), 椿 19-21.

Foreningen til Svampekundskabens Fremme

Ad: Rolighedsvej 23, Copenhagen V, Denmark.

Pe: **Friesia** (Nordisk Mykologisk Tidsskrift) 1 (1–5) (1932–'36), 2 (1, 2–3, 4–5) (1938–43), 3 (1, 2) (1944, '45)—5 (1953)+ One vol. 4 Hefts, publ. at irregular intervals. Ed: F. H. Møller, N. F. Buchwald (in 1945). Sb: Danish Crown 5.00 per year. Ow: 科博 1 (1)—3 (2), 小南 1(4), Nt: Continuation of "Meddelelser fra Foreningen til Swampe Kundskabens Fremme" (Contributions from the Society for the advancement of mycology in Denmark (1 (1912–5) 2–4 (1916–30)). Friesia の名は勿論 Elias Magnus Fries (1794–1878) に捧げられたものである。

Commonwealth Mycological Institute

Ad: Ferry Lane, Kew, Surrey, England.

Pe: **Index of Fungi.** 1 (1 (1940)—20 (1950) 276 pp.) 2 (1 (1950)—7 (1953)+)

Co: List of new species and varieties of fungi, new combinations and new names published since 1940. Sb: 7 s 6 d per year (ca 50 pp.) Ow: 科博 1 (1–20), 2 (1–7)+ Nt: No. 1–15 は Review of Applied Mycology の Suppl. として, No. 16 以後は独立の定期刊行物として出版。

Society for General Microbiology

Of: H. J. Bunker (President). Ad: Institute of Biology, Tavistock House South, Tavistock Square, London, W. C. I.

Pe: **The Journal of General Microbiology**

1 (1947)—5 (1951), 6–7 (1952) 8–9 (1953), 10–11 (1954) 12–13 (1955). One vol. 3 parts. Co: Various specialized fields incl. medical, veterinary, agricultural and economic microbiology, incl. bacteria, viruses, micro-fungi, protozoa and microscopic algae. Ed: Knight, Standfast & 16 Associate Editors. Pb: Cambridge Univ. Press, Bentley House, 200 Euston Road, London, N. W. I. Sb: 12 (3 parts), 13 (3 parts, each £ 4.10 S (15 $ in U.S.A.) Separate part £ 1.15 S (6 $ in U.S.A.). Ow: 伝研 1–13 (1955), 北大理植 1–。

Československý Mycologický Klub

Of: K. Cejp, J. Herink, J. Charvát, A. Pilát. Ad: V, Praze II, Benátska 2 (Botanický Ústav Karlovy University), Czechoslovakia.

Pe: **Česká Mykologie** (Mycologia Čechica)

1 (1947)—6 (1952)—9 (1955)+ One vol. 4 numbers 160–200 pp. per year. Sb: 6 (1–2, 32 pp.) 60 Kčs, 6 (3–5, 33–80 p.) 90 Kčs, 6 (6–7, 81–144 p.) 90 Kčs, 6 (8–10, 145–192 p.) 90 Kčs Ow: 長研 6–9, 今井 1–9。

Finlands Svampvänner (The Finnish Mycological Society) Of: Suomen Sieniseura. Ad: Institutum Botanicum, Unionink 44, Helsinki, Finland.

Pe: **Karstenia** (Journal of Scientific and Practical Mycology No. 1 (1951), 2 (1953)+ Co: Higher fungi, moulds and their application. Ed: Toivo Rautavaara, Risto Tuomikoski. Sb: 雑誌又は個人よりの別刷と交換。Ow: 長研 1–2, 今井, 1–2。

Giornale di Microbiologia 1 (July-August, 1955) One vol., 6 numbers per year

Co: Cellular physiology, biochemistry, biophysics, genetics, … Ad: Casella Postale 3279, Milano, Italy Sb: L. 3000 (ca. 4.75 $) for foreign c. per year.

International Society for Human and Animal Mycology Of: Redaelli (President), Emmons (Vice-p.), Ainsworth (Exeter), Negroni, Segretain, Vanbreuseghem (General Secretary).

Founded in Paris on July 6, 1954.

この方面の学者により構成せられ，機会あれば会合し，近い将来に機関誌を出す。会費年 3 $ は Vanbreuseghem (at the Banque d'Anvers, Antwerp, Belgium) へ。 (以上)

有毒エンシレージから分離された *Penicillium* について

椿 啓介

K. Tubaki: *Penicillium* isolated from toxic ensilage

菌類が生産する毒性物質に関する研究は，毒米問題によつて脚光を浴び種々の成果があるが，ここに種牛を死に至らしめた *Penicillium* を得たので研究速報とする。乳牛を集団斃死させた菌の例は先に関西に起り神戸衛生研の堀等によつて原因菌は貯蔵米から報告されている *P. urticae* であり毒性物質は Patulin なる事が報告された。然し今回のは全く異つた菌によつて起つた事件である。試料は青森県三本木の成田技師から科博小林博士を通じて送られたもので，輸入ホルスタイン種3頭を急死せしめた玉蜀黍エンシレージである。三本木の他数カ所のものが送られて来たが皆濃青緑色の黴でおおわれていた。この黴は殆んど純粋の形で発育しており，分離検索の結果 *Penicillium ro-*

queforti Thom に同定し得るものであつた。これを液体培養して毒性を検した所，乾燥菌体を食べさせたマウスは悉く死亡した。培養濾液よりも菌体に毒性物質が多い様に見受けられる。然し本種は衆知のようにエンシレージには極めて普通の菌で，ロックフォルトチーズにも関与していて食生活に関係が深く，今回の菌株の比較研究には慎重を要するものがある。本菌に就ては目下詳細に研究中で，毒性物質に就ては東大伝染病研究所で研究が進められている。なお，貯蔵エンシレージ及びサイロの内側に繁殖する菌類については古来多くの研究があり，9頭の馬を殺した飼料の報告もあるが原因不詳とされている。またエンシレージからの *P. roqueforti* については中根 (1946) 他の報告がある。現在の所，対策としては変敗飼料の食用を避けるか又はエンシレージに食塩添加等をして本菌の発育を防ぐ程度であろう。

文献： 堀外，日本細菌学雑誌IX： 1105 (1954) 他 中根，応用菌学I： 17 (1946)

新著紹介

Illustrated Genera of Imperfect Fungi, by H. L. Barnett. 218 pp., 302 figs. Burgess Publishing Co., Minneapolis, Minn., 1955. Price $ 4.00

本書は著者 Barnett 氏が述べる如く West Virginia 大学で菌学入門者に教授した経験から企図されたものである。不完全菌類 (Fungi Imperfecti; Deuteromycetes)に属する 283 属のほかに藻菌類の 19 属をも含め Imperfect Fungi として計 302 属を集めて，属の記載と代表種 1，2 をあげ，新しい菌の場合には文献ものせている。図は対象頁にあり，原図及び筆者が書き直したもので，大きく見易く良く特徴を選び簡潔なものとされている。全 302 属の Key が新しく作られ，学名は Dictionary of Fungi (1945) によつている。Synonym は挙げてなく分類学上の意見は述べられてない。広く医学方面にも及んでおり，入門者だけでなく，研究者にも手元に置き属の見当をつけるには頗る便利な書物と思う。(長尾研 椿 啓介)

菌学文献

Reinwardtia, (Bulletin of the Batanic Gardens, Buitenzorg), published by Herbarium Bogoriense, Kebun Raya Indonesia. から

Vol. I (1950-1952) Boedijn, K. B. & J. Reitsema: Notes on the genus *Cylindrocladium* (Fungi Imperfecti). p. 51-60 (1950)

Donk, M. A.: The generic names proposed for Hymenomycetes-I "Cyphellaceae". p. 199-220 (1951)

——: On the generic type species indicated by misapplied names. p. 483-486 (1952)

——: Notes on Malesian fungi-II. On the genera *Auricularia*, *Hirneola* and *Laschia*. p. 487-500 (1952)

Vol. II (1952-1954) Donk, M. A.: Notes on resupinate Hymenomycetes-I. The genus *Pellicularia* Cooke. p. 425-434 (1954)

——: The generic names proposed for Hymenomycetes-II. Hymenolichens. p. 435-440 (1954)

——: The generic names proposed for Hymenomycetes-III. Clavariaceae. p. 441-493 (1954)

——: On Staude's new generic names for agarics. p. 495-498 (1954)

日本菌学会例会記録

日本菌学会創立準備会 昭和 30 年 12 月 11 日（於大塚若台閣）平田幸治氏（ウドンコ病菌の分類），印東弘玄氏（本邦初発見の *Coemansia* 属菌）などの話をきいた後，談話会を日本菌学会創立準備会に切り替え，予て小林義雄氏外によつて作成された規約草案により，菌学会創立について審議した。菌類談話会の全員は，そのまま日本菌学会の創立会員となり，菌学会発展に協力することを約して会食後散会。

日本菌学会創立総会 昭和 31 年 2 月 20 日（於国立科学博物館）この日，菌類談話会員が参集し，小林氏より菌類のタイプ標本に関する談話あり，懇談の後にこの会を以て日本菌学会の創立総会とし，今関六也氏議長の下に前回の会合で審議した規約に基き会の発足を宣言し，今後の学会運営に関する具体的問題について審議した。規約第11条により総会は草野俊助先生を会長に推挙した。次いで規約第12条により会長は小林・今関・平塚・印東の 4 会員に幹事を委嘱した。

第 1 回日本菌学会例会 昭和 31 年 3 月 18 日（於国立科学博物館）まず印東が Stewert 外の菌類より取出したゴム物質に関する論文及び De Long の *Bacillus subtilis* の有性現象に関する論文を抄読し，次いで小林氏が南極土産の *Prasiola* について紹介した。なお，この会においては前回の総会で委嘱された 4 幹事の事務分担及び幹事補佐の委嘱についての発表が行なわれた。

第 2 回日本菌学会例会 昭和 31 年 4 月 15 日（於東京教育大学）この日は日本植物病理学会大会その他により上京中の各位に予め連絡しておいたので，参会者

40名を越える盛会であつた。まず4幹事の挨拶の後に参会各位の自個紹介を行ない，次の講演を傾聴した。

永井政次：苗腐敗病菌の *Pythium* sp. に寄生した *Chaetocladium* について，〔苗腐敗病の研究時に池水中から分離した *Pythium* に *Chaetocladium* が寄生したのを発見し，その形態・生活史等を観察し，*Ch. Breferdii* であると同定した。*Pythium* は本菌の new host である〕

桂　琦一：*Phytophthora capsici* の游走子の鞭毛の変化に関する研究，〔*Ph. capsici* Leon. の游走子嚢を水中で観察すると，その内容が分裂し鞭毛が現れるが，これを 0.3 モルの蔗糖液で原形質分離させると鞭毛運動が緩漫になり，これを1％の寒天溶液内で泳がせてみると鞭毛に節状のものを生じ中央から折れ曲つて短縮するようなことが認められた〕　（印東）

編輯後記

いよいよ日本菌学会が創設された。長い年月の間，出来るべくして出来なかつた学会であつたが，機は熟していたので，1956, II-20 にすらすらと発足することになつた。直ちに草野博士を初代会長に推し，幸にして先生の御快諾をえることができた。また発足当初の世話役として，小林（庶務），平塚（会計），今関（編輯），印東（例会）の4名が幹事に委嘱された。

さて学会は設立されたが，当面の活動としては月の例会，年の大会を開くことと，会報の発行とがある。このうち会報は全会員の知識の交換，相互の研究向上をはかり，学会活動の情況を広く知らせる大切な機関であることはいうまでもない。また我々の機関誌を米の Mycologia, 英の Transactions, 仏の Bulletin というような立派な雑誌にまで発展させることを夢に描くものであるが，現実は8頁程度の小冊子を年数回出すことがせいぜいのようである。ところがこの様な小冊子であつても，会報としての役目を果していくことは容易でない。いや，小さい程ますますむずかしいとも考えられる。

編輯幹事の大役を引きうけた私としてはこの会報自体を会員のすべての方に役に立つようなものにしたいと思つている。そして会員即ち菌学に興味と関心を持たれる同好同学の士を一人でも多くし，まず日本の菌学会の基礎をかためたいと考える。この会報はその様な目標を持つ印刷物として長くつづけ，若し会員の研究による立派な論文を印刷できる様な所まで会の土台ができたら，その時は別の発表機関誌を持つてもよいのではないかとも考えている。

では，この会報にどんな記事をのせ，どんな内容をもれば会員の期待にこたえることができるだろうか。世話役・幹事の間で話し合つた色々項目をあげ，会員の御意見をうかがいたいと思う。

1. 総説的な記事（本号の小林博士の記事はその一例）
2. 研究速報（本号椿氏の記事が一例）
3. 研究紹介：戦後各地の大学や研究所からそれぞれ印刷物が発行されているが，これを通覧することは容易でない。このことは多くの研究者にとつては大変不便なことで，同学研究者間の有機的な連絡をはかる必要が痛感される。また日本の研究は国際性に乏しいというが，国語の特殊性によるハンデキャップからも致し方がないとはいえ，日本の研究をもつと国際的に知らせる必要がある。この様な意味で国内の菌学関係の論文の題名だけでもリストすることは，国内的にも国際的にも意義があると考えられる。
4. 海外研究の紹介：海外の文献に眼を通すことは一層困難である。特に菌類関係の雑誌類は 1—2 のものを除いては，我国で購読する部数が少く，大部分の人にとつては無縁のものである。最近国立科学博物館，長尾研究所の努力によつて各国の菌学雑誌が次第に集まつてきているが，これらの雑誌の掲載論文のリストだけでも会員にお知らせできれば，大に参考になるのではないだろうか。
5. 新刊図書の紹介。
6. 新学名報知：主として国内のもの。
7. 菌類フロラ資料：会員には各方面の専門家がおられるが，採集又は鑑定依頼などによつて得た菌類の分布上の新知見を気軽に会報にのせて，日本菌類誌の集大成の資料とする。
8. テクニカルニューズ
9. 随筆
10. その他学界消息，研究所だよりなど

以上，8頁の小冊子にしては慾張りすぎもあり，我々の能力からいつて計画だおれの様でもある。しかし会員諸賢の御意見を広く知ることが何よりも大切であるので，いささか誇大妄想の気味はあるが，あえて夢を記して見た。

しかしいずれにしても立派な会報は少数の片よつた知恵だけでつくれるものではない。方針がきまれば編輯部は乏しい能力の最善をつくすつもりであり，また各地の会員諸賢にも色々と注文や御願をいたすこととなるであろうが，その節は格別の御協力を賜わり度く衷心より御願をする次第である。　（今関）

編集者	今　関　六　也 東京都目黒区下目黒4の770 林業試験場
印刷所	笠井出版印刷社 東京都港区芝南佐久間町1ノ53 TEL. (50) 3640・3641・9212